

こんにちは。附属図書館です。じめじめした梅雨の季節がやってきましたね。雨で外に出ることができない日でも、本を開けば広い世界が待っています。学校に来た際は、図書館で気になる 1 冊を選んでみましょう。また、急な雨でお困りの際は、図書館にて傘の貸し出しをしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。



図書館からのお知らせ

相互貸借 (ILL) について

『卒論のために読みたい論文があるけど、公開されていないので読めない。』

『うちの図書館にはないけど、他の図書館にはある図書が読みたい。』

と思ったことはありませんか?! ぜひ図書館にご相談ください^^

鈴鹿大学は ILL 加盟館です。ILL とは、ご自身で入手できない文献を他の図書館などの協力によって入手することができる相互協力サービスのことです。

相互貸借には、文献複写と現物貸借があります。

文献複写：著作権の範囲内でコピーを送付してもらおう。

現物貸借：現物を借り受ける。

申込みをしていただいてから約 1 週間程度お日にちをいただいております。

また、複写料や郵送料がかかります。

申込方法は、図書館受付に来て頂くか、担当の先生に相談してくださいね。

国立国会図書館とは?

皆さんは《国立国会図書館》をご存知でしょうか? 国立国会図書館は、国会に属する唯一の国立の図書館です。東京都に東京本館と、京都府に関西館があります。国立国会図書館法によって、日本国内で発刊されたすべての出版物 (CD や DVD, 地図なども含む) を国立国会図書館に納入することが義務付けられています。驚きですね。満 18 歳以上であれば誰でも利用することができます (18 歳未満でも調査研究のため必要と認められた場合は可能) が、残念なことに借りることはできません。しかし、申し込みを行うことで、著作権の許す範囲内で複写をすることができます (有料)。現在では、デジタル化が推奨されているので、国会図書館に行かなくても一部はネットで閲覧することが可能です。当館でも、国立国会図書館の本や作品を閲覧することができるパソコンを設置しておりますので、使用したい場合はお気軽に図書館スタッフにお声がけください。



今月の展示コーナー



←今月の展示コーナーのテーマは、国際地域学部より、『日本経済を通して国際経済をのぞいてみよう!』です。経済と聞くと難しいなと感じてしまうかもしれませんが、経済をわかりやすく言うと、生産・流通・消費の一連のつながりのことです。「経済」を知ると知らないでは、将来が大きく変わると言われているほど、重要な知識です。一緒に学んでいきましょう。

熊野古道世界遺産 20 周年連携展示→

今年も三重県立図書館と連携し、熊野古道世界遺産登録 20 周年に合わせて、展示を行うこととなりました。

この展示を行うことで、より多くの方に熊野古道及び東紀州地域に興味を持ってもらい、実際に訪れるきっかけになることを目指しています。神秘的な世界にひたり、ゆっくり古道を散歩してみるのはいかがでしょうか。



新着本

愛するよりも愛されたい 令和言葉・奈良弁で訳した万葉/ 万葉社

シリーズ累計 25 万部の大ヒット万葉集!
1300 年前に奈良で生まれた万葉集を、現代の奈良弁で訳したユニークな本。
難しそうな万葉集も、これなら読めるかも?!
クスッと笑える 1 冊です。



日本語を学ぶ外国人のための これで覚える! 漢字字典 2500/ ナツメ社

日本語を学習する人が、まず覚えておくとよい漢字に関連する意味ごとに解説。次に、少ない画数の部首で、形も意味も近い漢字を連続させることで、覚えやすい順になっています。最後に、書くことは難しくても、読めるようにしたい漢字を部首順に掲載されているので、まずはこの 1 冊を取り組んでみましょう。



「ヘンな科学—“イグノーベル賞”研究40講」
五十嵐杏南



こども教育学部教授 木村 幸泰

みなさんは、「キツキが頭痛にならない理由」「わさびを使った火災報知器の作り方」なんてことを考えたことはありますか。実はこれらは、イグノーベル賞に輝く立派な研究のテーマです。

ところで、「イグノーベル賞は、ノーベル賞のパロディー」と言う人もいますが、本当は「まずは人を笑わせて、その後考えさせる研究」に与えられるちゃんとした賞です。筆者は、その中から40講の研究を厳選し、軽妙で分かりやすい文章でその内容を紹介しています。その中の「ネコは液体か？」という研究を見てみましょう。何ともユニークで不思議なテーマですが、研究の中身は真面目そのもの。流体力学を用い、緩和時間（物体が変形するまでの時間）を測定するなど、様々な検証が紹介されています。それをもとに導き出された結論は「ネコは液体である」です。著者はこれを「誰も思いつかないテーマを、科学的にちゃんと調べたらすごい成果を得られた」と評しています。ちなみに、本書では「観客が紙飛行機を飛ばして始まる表彰式」「賞金は、1円にも満たない10兆ジンバブエドル」など、思わず笑えるエピソードも盛りだくさんです。

理科の勉強が大好きだった人も大嫌いだった人も、科学のおもしろさを知りたいなら、ぜひこの本を手にとってみてください。

「将棋の子」
大崎善生



短期大学部准教授 南谷 悠子

人間の強さと美しさに心を打たれる「将棋の子」をおすすめしたいと思います。

「聖の青春」で作家デビューされた大崎善生さんの第二作が「将棋の子」です。「聖の青春」は映画化もされているのでご存じの方もいるかもしれません。主人公の村山聖役を松山ケンイチさんが、羽生善治役を東出昌大さんが演じています。ちなみに私は将棋のコマの動かし方も怪しいレベルですが、ABEMAで棋士の対局を観戦したり、おやつは何を注文したのか気にしたり、と、観る将を自負しています。私が思うに、棋士は知性の象徴であり、最善手を研究し続ける探究心が必要です。しかも、美しい手や人間にしか指せない手があるらしく感性も求められ、さらにはリスクを取って切り込んでいく勝負師のような潔さも必要です。このような世界観にすっかり魅せられています。

将棋のプロになるのは東大に入るより難しいと聞いたことがあります。プロ棋士になるためには「奨励会」という大変厳しい組織で良い成績を収めないといけません。なぜ厳しいのかというと、地元では天才少年と呼ばれるような人たちがばかりが集まる中で、勝ち星を積み重ねていく必要があるからです。しかも、年齢制限があるため、26歳までに良い成績を収められない場合は、強制的に退会となってしまうのです。つまり、棋士になるという夢は叶わないということです。

将棋といえば、藤井総太八冠の勝敗がよくニュースになります。しかし、華々しい活躍をされているプロ棋士はほんの一部であり、プロ棋士になれずに夢破れた若者がいるということもまた事実です。「将棋の子」は、奨励会を退会した人たちのノンフィクションです。青年が人生のすべてを賭け、純粋な目標をもち、逃げ場のない奨励会で過ごした結果、奨励会を退会となってしまいます。強烈な挫折を経験した人がどのように自分と向き合っていくのか、そして、その後の人生をどのように歩んでいくのか。この本は何度読んでも心が震え、しかし最後にはやはり人間って素晴らしい、と感じることができる本だと思います。